

科目名称：	音楽表現研究Ⅱ	
担当者名：	朝倉 喜裕、水上 和子、上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
前期を継続してピアノ演奏を行なう。同時に保育実践演習のためのグループ協働による指導案研究と作成を行ない、保育現場での実践演習につなげる。		
#REF!		
Iを継続して、ピアノの表現技能を磨き、現場での音楽を媒体とした表現力の向上と種々の表現方法や手段を身に付ける。同時に指導案の構築を基に保育実践力の向上を目指す。最終的には成果発表会での演奏披露を行ない成果を確認する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			40	60	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 (水上) 附属西南幼稚園園長 代理	《経験年数1》 3年
	《内容2》 (水上) 附属西南幼稚園園長	《経験年数2》 1年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
ピアノ演奏技術	テンポ、リズムが正しくミス無く、暗譜をして演奏することができる。	テンポ、リズムが正しくあまりミス無く、ほぼ暗譜をして演奏することができる。	テンポ、リズムが正しくあまりミス無く、楽譜を見て演奏することができる。	練習不足でミスが多く曲の途中で止まらないように努力を要する
課題の進め方	指導案の作成や指導練習に意欲的、自発的に取り組んでいる。	指導案の作成や指導練習に丁寧に取り組んでいる。	指導案の作成や指導練習に、ほぼ取り組んでいる。	課題に取り組む努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ピアノ演奏曲の選定と練習の確認グループ分割	演奏候補曲の予習をしておく	40分
第2回 ピアノ演奏と協働研究の対象確認とテーマ研究	演奏曲の練習と指導内容の研究をしておく	60分
第3回 ピアノ演奏と協働研究の対象確認とテーマ研究	演奏曲の練習と指導内容の研究をしておく	80分
第4回 ピアノ演奏と指導案研究作成	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第5回 ピアノ演奏と幼稚園訪問	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第6回 ピアノ演奏と現場訪問反省会	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第7回 ピアノ演奏と協働研究の対象確認とテーマ研究(ディスカッション)	演奏曲の練習と指導内容の研究をしておく	80分
第8回 ピアノ演奏と協働研究の対象確認とテーマ研究(ディスカッション)	演奏曲の練習と指導内容の研究をしておく	80分
第9回 ピアノ演奏と指導案研究作成	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第10回 ピアノ演奏と指導案研究作成	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第11回 ピアノ演奏と現場訪問反省会	演奏曲の練習と指導内容の研究練習と指導案の研究をしておく	80分
第12回 ピアノ演奏と現場訪問のまとめ	演奏曲の練習とまとめの作成をしておく	80分
第13回 ピアノ演奏と現場訪問のまとめ	演奏曲の練習とまとめの作成をしておく	80分
第14回 成果発表会集中練習とプレゼンテーション練習	演奏曲の練習と楽曲レポートの作成をしておく	120分
第15回 成果発表会集中練習とプレゼンテーション練習	演奏曲の練習と楽曲レポートの作成をしておく	120分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までのピアノ 課題練習と協働表現の研究及び指導案のをまとめることになる。</p>		
<p>定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 成果発表会の演奏と楽曲研究レポート及び指導案への取り組みで評価 演奏60%、楽曲レポート20%、指導案取組み20%</p>		
<p>課題に対してのフィードバック 楽曲レポートは次年度以降図書館で期間限定にて閲覧できるよう配備する。指導案はその都度立会いチェックして指導を加える。</p>		
<p>教科書・参考書 各自演奏楽曲の楽譜。1年次よりのすべての器楽課題曲集。</p>		